

Sotto



[京都自死・自殺相談センター]

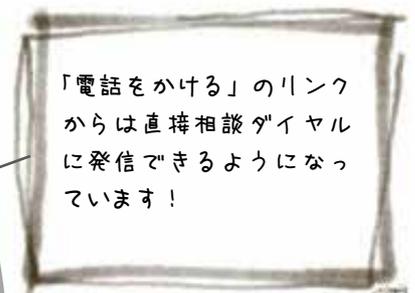
そっと Vol.4 [7月号]

特集 いのち支える全国キャラバン in 京都

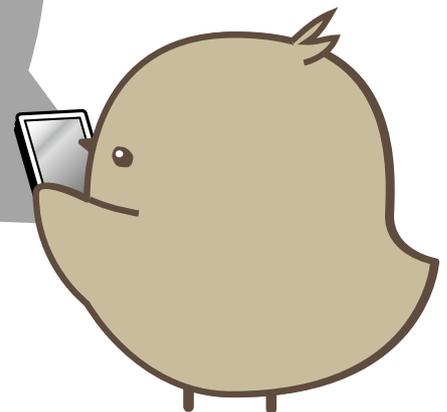
モバイルサイト、公開しました。

1年近く前から「あったらいいな」と思っていたモバイルサイト。(株)エクザム様のご協力で、ついに「いいな」を実現することができました。エクザム様にはPCサイトの作成をはじめ、いろいろなお願いにいつも全力で応えていただいているので、とても心強く感じています。この場を借りてお礼申し上げます。サイトの内容はPCサイトの内容をほとんど網羅したものになっています。クレジットカード募金にも対応していますのでぜひご利用ください。

当センターへ電話をかけてこられる方は、他の相談機関に比べて、若い方が多い傾向にあります。今回のモバイルサイト公開によって、死にたい気持ちを一人きりで抱える方がよりアクセスしやすくなればと思っています。



<http://www.kyoto-jsc.jp/m/>



街頭活動 @ 京都タワー前



「こころのカフェ きょうと」と
「京都自死・自殺相談センター」の
初コラボ。

7月8日、梅雨明け宣言の当日、「いのち支える全国キャラバン」の一環として京都タワー前で、街頭活動を開催しました。「いのち支える全国キャラバン」とは、自死（自殺）にまつわる課題にとりくむ関係者の全国的・地域的なつながりを強化するために、特定非営利活動法人自殺対策支援センターライフリンクによる協力のもと、自死をテーマにした取り組みを全47都道府県で開催して回る大規模プロジェクトです。

ここ京都では、自死によって大切な人を亡くされた方のサポートを行っている「こころのカフェ きょうと」、死にたいほどの苦悩に耳を傾ける活動を行っている「特定非営利活動法人京都自死・自殺相談センター」が協働して街頭活動を実施しました。自死にまつわる課題に取り組む二者が共催して行う初めての活動。〈大切な人を自死で亡くした方々の分かち合いの会〉および〈死にたいほどの苦悩を抱えた方々の相談窓口〉を紹介するチラシ・ティッシュの配布、街頭での呼びかけによる啓発、自死にまつわる活動の維持運営を目的とする募金活動を行いました。実際にわかち合いの会を開催されている団体の紹介をすることで、より広い範囲の方に関心をもっていただけたことを実感しました。

夕方5時から街頭に立ちました。日が長いので、まだまだ暑いくらいで、熱中症にならないように、水分をとりながらの活動。体力的にもハードでしたが、声をだせば出すほど、チラシを受け取ってもらいやすくなるため、精一杯の呼びかけをさせていただきました。



種まき。

〈いつか〉のための、

「少しだけ周りにまなざしを向けてみると、大切な人を自死で亡くした方、死にたいほどの悩みを抱えている方が、あなたの近くにいるかも知れません」という私たちの呼びかけにじっと耳をかたむけ、募金にご協力くださる方、「暑いのにごくろうさま、がんばってください」と声をかけてくださる方、「これから会う人に配るから」とチラシをもって帰ってくださる方など、本当に多くの皆さまのあたたかいお気持ちをいただきました。一方、足早に通り過ぎられる方、関心のなさそうな方もありました。しかし、情報を直接届けることができなくても、めぐりめぐっていつか手元に届けられれば・・・〈いつか〉のための種まきをするような気持ちでチラシを配布し続けました。

配布したチラシは1,500枚。募金額は11,868円。いただきました寄付金は、「こころのカフェきょうと」と「京都自死・自殺相談センター」で折半し、それぞれの活動資金にさせていただきました。大切に使用させていただきます。本当にありがとうございました。(N)

コラム | ココロナル

相談ボランティア養成講座開始によせて。

相談活動委員長 廣谷 ゆみ子

6月25日、26日の1泊2日、本願寺の山科別院にて、第2期ボランティア養成講座の合宿を行いました。梅雨の時節、雨模様を覚悟していたにもかかわらず、天気予報も見事にはずれ、2日間ともに晴天。受講生、運営委員のスタッフ、サポート役の第1期のボランティア等、総勢約30名が緑に囲まれた山科別院の境内地の中にある研修会館に集いました。

5月から開講している養成講座もいよいよ中盤にさしかかり、「自死・自殺」を課題に、全員で車座になったり、あるいは小グループに分かれたりと、さまざまな形でのワークを数多く重ねました。またゲストとして、「こころのカフェきょうと」の代表石倉紘子さんにもお越し頂き、ご自身の体験談、大切な人を自死によって亡くされた方々の思い、グリーフサポート等、私たちの団体にとってこれからの活動の指針となる貴重なお話を伺いました。

時間に縛られることなく、たくさんの仲間と共に傾聴し、それぞれの想いを語り合った2日間は、多くの深い気づきを得た合宿ではなかったかと今、振り返っています。

そして、また来年「京都自死・自殺相談センター」の死にたいほどの苦悩に耳を傾ける活動の輪が、今回の合宿に参加した受講生から未だ見ぬ第3期生へつながっていくことをたしかに感じた2日間でした。

活動報告

- 電話相談件数…60件（6月）
- 啓発活動委員会
6月13日（火）参加者9名
- 相談活動ミーティング
6月15日（水）参加者11名
グループスーパービジョン
- グリーフサポート委員会
6月23日（木）参加者18名
分かち合いのロールプレイ
- いのち支える全国キャラバン街頭活動
7月8日（金）京都タワー前
参加者20名

寄付ご協力一覧（敬称略・順不同）

（2011年6月18日～7月20日）

ご協力にこころより感謝いたします

浄土真宗本願寺派	梅原正英
株式会社エクザム	佐々木恵精
彦根市・専宗寺（松浦信）	菊井誠
長岡市・雲外寺（真敷祐孝）	澤波光教
高島市・眞光寺	竹本了悟
宮崎市・真栄寺	野呂靖
広島市・徳行寺（三ヶ本義幸）	葛野洋明
一関市・正光寺（北島浄春）	小澤アイ子
いなべ市・常満寺	西義人
出雲市・名圓寺（寄藤信子）	百々靖
都城市・攝護寺（佐々木鴻昭）	武田慶之
岡山県・専教寺（佐々木龍生）	門上誓明
街頭で募金に応じてくださった皆様	中西正導
岐阜市・法久寺（本田龍司）	堀江成典
八代市・大法寺（大松龍昭）	森直道
松山市・西福寺（二宮正見）	大江眞
京都市・雲晴寺	霜尾孝紹
呉市・宝徳寺（平原弘史）	霜尾光江
広島市・万福寺（前寺哲信）	森居佳夫
矢野利生	寺村美知子
西崎英子	藤森観海
釋氏真澄	

発行

特定非営利活動法人 京都自死・自殺相談センター事務局
〒600-8349 京都市下京区西中筋通花屋町下ル堺町92
TEL 075-365-1600
URL <http://www.kyoto-jsc.jp>
E-mail so-dan@kyoto-jsc.jp

Sotto レビュー

『FUTON』

中島京子 著・講談社文庫



100年前に書かれた田山花袋の『蒲団』。読んだことはないが、小説家が女弟子に恋をして悶々とするという内容の小説なのだとか。本書の中では、『蒲団』が『蒲団の打ち直し』という新たな小説として書き直されている。

『蒲団の打ち直し』を書くのは、アメリカで日本文学を研究しているデイク。この小説の主人公である。恋人のエミを追って日本にやって来た彼は、そこでさまざまな女性たちに会う。画家のイズミ、ヘルパーのハナエ…。彼女らの声を聞き、「何か途方もなく懸命に生きている」女という生き物の存在に気づかされた時、彼は『蒲団』の中に主人公の妻という登場人物がいたことを思い出す。『蒲団』の中では脇役で、名前すらつけられていない彼女にも感情があり、苦悩があっただろう。その想像が、彼に『蒲団の打ち直し』を書かせることになる。

作者の想像は、忘れ去られた街の過去にも向けられている。「この街は、陽気で、バカ騒ぎが好きで、新しいものに満ちている。いつも超特急で走っているから、誰もこの街の過去のことなんか、思い出したりしない。でも、ふと思ったの。この街は傷ついたので、十分に癒されたんだらうかって。そのことを絵に書こうと思ったんだけど、いまだにどう描いたらいいのかわからないの」

人生は忘れ去られるような出来事の積み重ねだ。でも、そこにはさまざまな感情が確かにあったと想像することで、少しだけ豊かになる気がする。（N）

今月のことば

苦しみの語りは語りを求めるのではなく、語りを待つひとの、受動性の前ではじめて、漏れるようにこぼれおちてくる。つぶやきとして、かるうじて。

（鷲田清一『聴くことの一臨床哲学試論』
阪急コミュニケーションズ）